様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １０ 日現在

機関番号：３２６４１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｈ０３２４３

研究課題名（和文）日記資料に基づく高度成長期日本民衆のデモクラシー意識の特徴と変容に関する研究

研究課題名（英文）The study on the Japanese people's consciousness of demcoracy and its change during rapid ecomomic growth era by the diaries written by the people.

研究代表者
吉見　義明（YOSHIMI, YOSHIAKI）

中央大学・企業研究所・客員研究員

研究者番号：４０１０２８８４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　6,900,000円

研究成果の概要（和文）：　高度成長期日本民衆のデモクラシー意識の特徴と変容を研究するため、青森県から沖縄県までの民衆自身が書いた高度成長期の多様な日記を収集し、その分析を行った。岐阜県に住む地域遺族会幹部は、農業保険事業や農業を営む傍ら、戦死・戦病死した二人の息子を悼み、遺族会の活動に献身した。埼玉県に住む小学校教員は、児童の教育に取り組む傍ら、デモクラシーを発展させようとした。沖縄にすむある農民は、保守的な立場から、沖縄の農業を守るために奮闘しつつ、アメリカ軍による支配に反発していった。これ以外にも収集した日記は多数あり、その分析をしていけば、高度成長期の民衆のデモクラシー意識の多様さとその深さを明らかにできる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
高度成長期日本の研究は数多くあるが、民衆自身の日記に基づき、その生活世界を含めて、人びとの体験とその特徴を分析したものはこれまでにほとんどなかった。本研究は、地域・性別を異にする多様な民衆の日記に基づき、その特徴を明らかにした。これは、「上からの歴史」「大きな物語」に替わる「下からの歴史」「小さな物語」である。これによって、高度成長期日本における資本主義世界市場や国民国家との関係で連携しまた緊張関係におかれる民衆世界の態様とその変容、デモクラシー意識の多様性・豊かさとその変容を具体的に明らかにできる。そのことによって、戦後の各国の高度成長との比較を可能にする道を開くことになる。

研究成果の概要（英文）：We found and collected many diaries written by Japanese people to study the consciousness of democracy and its change during rapid economic growth 1955-1973. For example, a farmer in Gifu prefecture, whose 2 sons were killed in action or died from the disease contracted at the front, lamented the death of sons, devoted the activity of the association of the war bereaved. An elementary school teacher, living in Saitama prefecture,felt deep regret that she was a militaristic girl, tried to develop Japan's democracy. A conservative farmer lived in Okinawa, struggled to defend Okinawa's agriculture, reacted against the US military control. We have many diaries, and if we analyze them in detail, we could demonstrate the diversity and rich vein of the consciousness of democracy during Japan's rapid economic growth era.

研究分野：人文学

キーワード：日本現代史　民衆世界　高度成長期体験　日記研究　民主主義　民衆意識

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）日本の高度成長期に関する歴史学的研究は、政治・経済・社会運動に関する研究が進んでいたが、その殆どは中央の動向を上から見たり、運動を行う人びとを分析したりするものであり、普通の民衆の視点から、民衆自身が書いた日記資料に基づき、その意識と行動を検討したものはほとんどなかった。

（２）また、民衆自身が書いた日記はあまり発見されていなかった。特に女性の日記は殆ど発見されておらず、意識的な日記探索の努力はなされていなかった。

２．研究の目的

（１）本研究の目的は、まず高度成長期の民衆の日記を多数発見し、それをデータ化することである。

（２）もう一つの研究目的は、収集した日記を基に、高度成長期の日本民衆のデモクラシー意識の特徴とその変容を解明することである。そのことによって、「上からの歴史」「大きな物語」の提示にかわり、資本主義的世界市場や国民国家との緊張をはらんだ「民衆世界」の実像を明らかにし、その中で生きる普通の人びとの意識と行動の特徴と変容を明らかにすることである。

３．研究の方法

（１）日記の所在について、国立国会図書館の蔵書目録から探索の手がかりをえること、全国の自治体の資料保存機関に問いあわせること、民間の所蔵機関を探し問いあわせること、古書店の販売目録から探索すること、という方法をとった。

（２）日記の存在が分かると、各地の所蔵機関等に出向き、カメラで撮影し収集した。また、古書店から日記現物を購入した。そのうえで、日記を読み込んでいき、日記の記事と関係する史料を探索し、日記筆者のバックグラウンドを踏まえた上で歴史像を構成していった。

４．研究成果

（１）資料調査の結果、各地に多様な日記が保存されていることが判明した。そこで、研究代表者と研究分担者小薗崇明、研究協力者比江島大和・舟津悠紀はその収集を行った。青森県では、郷土史家である「肴倉弥八日記」（1949-1969）、配乳業の「澤田一男日記」（1948-1981）、高校教員である「三浦茂雄日記」（1951-1981）を収集した。千葉県では小学校教員の「青木祥子日記」（1952-1989）、大企業職員の「平野仁蔵日記」（1920-1960）、経営者である「永井幸喜日記」（1958-1966）を収集した。長野県では村長である「宮下土義日記」（1961-1971）、バスの車掌をつとめた「細田寸海子日記」（1950-1965）を収集した。岐阜県では地域遺族会会長である「野原武雄日記」（1929-1973）を収集した。京都府では巣鴨に収容された夫とそれを気遣う妻の日記である「大槻隆・澪子日記」（1947,1959-1960,1989-1991）、建築家の「西山夘三日記」（1960）を収集した。沖縄県では農業経営者の「宮城親義日記」（1943-1981）、地域有力者の「浦崎康裕日記」（1952-1966）と「新里善助日記」（1915-1972）、自治体職員の「知花成昇備忘録」（1957-1962）、沖縄教職員組合（のち知事）の「屋良朝苗日記」（1953-1973）を収集した。また、高度成長期を含む近現代の日記原本 198 冊を入手した。

（２）上記の日記を基に高度成長期の民衆意識、とくにデモクラシー意識の特徴とその変容について研究し、その成果の一部を公表した。

①岐阜県の地域遺族会会長（農業、農業共済組合職員）の日記の分析では、この男性は、二人の息子が戦死・戦病死したことを悼み、毎日かかさず追悼していること、二人の息子がなくなったことにより高度成長期に高齢となって苦労し、他方で陸軍・政府の戦死者に対する取扱いが余りにぞんざいなことに怒り、遺族会活動に献身することを明らかにした。また、このような動きが、遺族会の未曽有の署名運動など大衆的運動を地域で支えていたこと、これが地域の保守的基盤を強化させたこと（保守の基盤の活性化と拡大）を明らかにした。これは、高度成長期のある意味での「デモクラシー」の大きな特徴のひとつといえるであろう。このような保守の地盤を解明できる日記は他にもかなりあり、これまでの高度成長期像とは異なる歴史像を下から再構成できる展望がえられた。これは、各国の軍隊を支える保守的地盤の比較研究にも寄与するであろう。

②高度成長期に埼玉県の小学校教員だった女性の分析では、この女性は、戦争中熱烈な軍国少女として育ち、中島飛行機武蔵野工場の職員として動員学徒の勤労意欲維持のために献身したのだが、敗戦後、それが無駄な努力であったことや、戦争のない平和のありがたさに気づき、高度成長期には戦争中の苦い体験を再び繰り返さないために、深い危機感をもって安保闘争に参加していき、戦後革新派を支える地盤となっていくこと、しかし、アメリカ的生活様式へのあこがれや、高度成長の下での生活の安定と豊かさの享受により、やがてその思いが融解していくことを明らかにした。これは、戦後の革新派を支えた構造とその変容を民衆のレベルから

明らかにできる見通しをえられるものである。また、高度成長期に一般化するといわれている専業主婦化する女性とは異なる勤労女性の軌跡を追えるものである。今後、この姿を、専業主婦となった女性の日記からえられる女性像と比較することによって、高度成長期の新たな女性像が描ける見通しが立ち、女性史・家族史にも寄与できると考える。

③沖縄県北部の農民の日記分析では、この男性は、北部の山中に逃げた戦争中の飢餓の体験から、食料が何より大事だという思いを行動の軸として、村役場職員、農場経営などで農業振興に奮闘すること、また、戦後は保守的な立場から沖縄自民党の地域の支持基盤を構成すること、しかし、米軍の射爆場建設問題やベトナム戦争での沖縄の出撃基地化により米軍支配の危険性を感じ、徐々に革新派にも共感するようになることなどを明らかにした。また、アメリカの施政権下の沖縄では、本土より少し遅れて高度成長がはじまるが、その様相は、電気掃除機・テレビ・電気冷蔵庫の普及やカマド等の廃止など本土と同様の側面もあるが、旧慣の残存などかなり異なった面もあり、本土と沖縄の比較により新たな高度成長像が描ける可能性を示すものだといえる。

④このように、地域・職業・地位・性別によって民衆の意識と行動は多様なものがある。収集した日記の分析はまだ一部であるが、今後分析を継続して行けば、高度成長期の民衆の意識と行動の特徴をより具体的に明らかにし、新しい高度成長（期）像を構成できるだろうという見通しをえることができた。これは、第二次世界大戦後の各国の高度成長（期）像の比較研究の新しい道を開くという意味でも、大きな社会的貢献になると思われるので、今後この分析を継続していきたい。

（３）研究分担者田中祐介は、韓国における同時代の日記に関するシンポジウムに参加した。韓国でも日記の発掘が進みつつあり、同時代の東アジアの日記の比較研究の道を開くことになる。

（４）研究の成果を公表するため、2018 年 10 月 20 日に中央大学駿河台記念館で学術シンポジウム「日記から読み解く高度成長――ひとびとの意識と行動」を開催した。ここでは「日記による高度成長（期）研究の意義と課題」と題する報告と、「平野仁蔵日記」「塚本昌芳日記」「時岡八七子日記」「飯塚とみ日記」「山田義一・ヨメ子家計簿」「野原武雄日記」「宮城親義日記」に関する報告、および「個人の遺産を社会の遺産に」と題する報告が行われた（参加者 70 名）。このシンポジウムにより、高度成長期に関する多様な日記が存在していることが広く明らかにされたことは大きな意義をもつ。また、日記の分析方法（これらの日記により新たに何が明らかにできるか）をめぐって活発な討論が行われ、日記分析によりこれまで知られている歴史像を別の角度から明らかにできること、また、これまでとは異なる歴史像を構成できる可能性に満ちていることが確認された。

（５）「女性の日記から学ぶ会」が所蔵する約 3 千冊の日記の整理を行い、その目録化作業を行った。この日記類は現在も所蔵数が増えており、目録化作業は完了していないが、完了し次第、同会の了承をえた上で、研究分担者田中が公開する予定である。高度成長期を含む近現代の日記 198 冊については、研究代表者が目録化し、印刷した。研究分担者田中は、福田秀一日記コレクションの高度成長期関連日記のデータベース化を行った。これは 2019 年度中にインタネットで公開する予定である。これらの作業が完結すれば、膨大な日記を社会遺産として広く利用できる道を開くことになると考える。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計５件）

①吉見義明、ある小学校教員の高度成長期体験――「青木祥子日記」（1960 年）を読む、商学論纂、61 巻 1・2 号、2019、ページ数未定

②比江島大和、舟津悠紀、吉見義明、ある兼業農民の戦中・戦後体験と高度成長期体験――「野原武雄日記」の検討、商学論纂、59 巻 3・4 号、2018、353-394

③舟津悠紀、比江島大和、吉見義明、高度成長期における沖縄の民衆の日記について、商学論纂、58 巻 5・6 号、2017、481-511

④田中祐介、「書くこと」の歴史を問うために――研究視座としての「日記文化」の可能性と学際的・国際的連携、日本近代文学、96 集、2017、138-145

⑤小薗崇明、空襲体験の次世代継承を考える、子どもが主役になる社会科、48 号、2017、83-92

〔学会発表〕（計６件）

①吉見義明、日記による高度成長（期）研究の意義と課題、学術シンポジウム「日記から読み解く高度成長」、中央大学駿河台記念館、2018 年 10 月 20 日

②吉見義明、沖縄人にとっての高度成長――「宮城親義日記」を読む、同上シンポジウム

③大木めぐみ、荻原利花、田中祐介、根来由紀、共稼ぎの主婦になった文学少女――「飯塚とみ日記」を読む、同上シンポジウム
④TANAKA Yusuke, "Diary Culture" as Research Perspective, Analysis on Social Change of post-war East Asia through Personal Documents,全北大学（韓国）、2018 年 1 月 18 日
⑤吉見義明「草の根のファシズム」とその後、ワークショップ「『草の根のファシズム』――その歴史と現在」東京外国語大学日本学研究院、2017 年 1 月 30 日
⑥TANAKA Yusuke、The Conformed/Deviated Self in Diaries of Modern Japan: The Diversity and Contradiction of Self-expression, AAS in Asia conference,同志社大学、2016 年 6 月 26 日

〔図書〕（計２件）
①小薗崇明、渡辺哲郎、和田悠編、はるか書房、子どもとつくる平和の教室、2019、269
②田中祐介編、笠間書院、日記文化から近代日本を問う、2017、564

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究分担者
研究分担者氏名：田中　祐介
ローマ字氏名：(TANAKA Yusuke)
所属研究機関名：明治学院大学
部局名：教養教育センター
職名：助教
研究者番号（8 桁）：40723135

研究分担者氏名：小薗　崇明
ローマ字氏名：(KOZONO Taka-aki)
所属研究機関名：東京成徳大学
部局名：人文学部
職名：助教
研究者番号（8 桁）：60768240

(2)研究協力者
研究協力者氏名：比江島　大和

ローマ字氏名：(HIESHIMA Hiroto)

研究協力者氏名：舟津　悠紀
ローマ字氏名：(FUNATSU Yuki)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。